

かがやきなかの ニュース

誰もが排除されたり、置き去りにされることのない社会をつくりましょう



私たちは「地球を救う機会を持つ最後の世代」

SDGsが目指すのは、

- ①地球の環境を守りながら
- ②すべての人が尊厳をもって生きられる社会と
- ③誰もが豊かな暮らしを継続的に営むことのできる経済を実現することです。

SDGsとは、「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals) から一文字ずつ取った略称です。私たちの子や孫、ひ孫、更にはその先の世代までも、ずっと豊かに暮らしていけるように、私たち自身が今やるべきことを大きく17に分類したものです。

国連の言っていることなんて、どこか遠い世界のことと思ってしまうかもしれません。また、開発なんて国や大企業の仕事で、日本で慎ましく暮らす自分たちには関係ないことと感ずる人もいるでしょう。でも、SDGsは、実は私たちに身近なもので、個人で気をつけなければならないことから地球規模の課題まで、とても重要な問題を提起しています。

キーワードは「誰一人取り残さない」です。SDGsとは、「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals) から一文字ずつ取った略称です。私たちの子や孫、ひ孫、更にはその先の世代までも、ずっと豊かに暮らしていけるように、私たち自身が今やるべきことを大きく17に分類したものです。

私たちは国籍や民族を超えて地球市民です。国連はSDGsの担い手を「地球を救う機会を持つ最後の世代」と位置づけ、環境の悪化や紛争、貧困、不平等などにより転覆しかけている船（地球）の乗組員である人類が、みんなで協同して舵取りするよう警鐘を鳴らしています。特に協同組合への期待は高く、様々な地域課題に取り組みことや、組合員を含む市民への働きかけに貢献すること、働き甲斐のある職場づくりなどが求められています。

組織や企業は自らの事業や活動が17の目標のどの部分に対応しているか明確にし、目標を設定して取り組むことが求められています。

市民は日々の生活がどう繋がっているかということ意識することから始まり、世界で起きている問題を自分ごととして捉え行動することが求められます。

私たちは長野高齢協も事業や活動をSDGsのメガネを通して考え直すことが必要です。

では、個人や家族でできることは？
実際にSDGsに取り組もうとしても、「何から手をつけたらいいかわからない」そんな声がよく聞こえます。個人や家族でちよつとした行動をとるとき、環境や他者に配慮することができれば良いのではないのでしょうか

最近、ドーナツ型のカラフルなバッチを付けている人を多く見かけるようになりました。国連が2016年から2030年までの15年間で達成しようとした「持続可能な開発目標（SDGs）」に「自分たちは取り組もうとしている」という意気込みを表明したものです。書店でもSDGs関連の本が数多く並んでいます。

SDGsはどのようにしてここまで広がりを見せているのでしょうか。国連の言っていることなんて、どこか遠い世界のことと思ってしまうかもしれません。また、開発なんて国や大企業の仕事で、日本で慎ましく暮らす自分たちには関係ないことと感ずる人もいるでしょう。でも、SDGsは、実は私たちに身近なもので、個人で気をつけなければならないことから地球規模の課題まで、とても重要な問題を提起しています。

理事長 思いを語る ④

待ったなしの気候危機に高齢協はどう取り組むか

今年の、国際協同組合運動の重点テーマは、「気候変動に立ち向かう」です。これはSDGsの目標の13に対応する内容です。

昨秋の台風を経験した私たちにとって、異常気象は我が身の問題です。近年台風や前線が短時間に強大な威力を蓄え、しかも勢いを持続させながら移動速度が遅くなる現象が、温室効果ガスに由来すること、この「異常」な事態が、今後は毎年繰り返されても不思議はないとの議論が昨秋来、メディア等各所で繰り返されました。その予想にたがわず、7月上旬九州はじめ東北に至るまで国土を総なめにしながら豪雨が発生し、大きな被災となりました。あらためて、国連文書から「気候変動との闘い」の射程を見ると、それは温暖化や異常気象、海面上昇だけでなく、生物多様性の喪失、感染症の拡大、干ばつ、水・食料危機等、様々な深刻影響をもたらす現象が幅広く含まれ（感染症もこの中に入っています）、SDGsの他の目標とも深く関連づく「元締め」的課題であることがわかります。

気候危機という課題に、各協同組合がどう接近しているか、生協陣営のとりくみを見ると、廃棄物の削減や火力や原発によらない再生可能エネルギーへのとりくみ、また使用車両のエコカー導入等が挙げられています。自治体レベルでも長野県では、今年4月1日、「気候危機突破プロジェクト」を発表し、「まちづくり」をこれに接続させる考え方を示しています。ただ、現状の延長で「できそうなこと」に安住していたのでは、どうても、気候危機の進行に対応することはできません。福祉・配食や生活支援に関わる高齢協では、率直にいった後回しになりがちな課題ですが、だからこそ、暮らしや環境、防災に関わって幅広く活動している地域組合員の皆さんの知恵を結集し、また他団体とも学びあひながら、まずはこの課題が「待ったなし」の危機的状况であるとの認識を共有するところから始めたいと考えます。

田中夏子

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



例えば、ある商品を購入するにあたって、価格だけではなく環境に配慮した商品を選ぶこともそうですし、フェアトレードの商品（発展途上国で作られた作物や製品を適正な価格で継続的に取引することにより、生産者の持続可能な生活向上を支える仕組み）を選ぶこともそのひとつです。食品ロスも環境に大きく影響します。マイバックやリユース・リサイクル問題もあります。

大事な事は、現状をしっかりと把握し、自分がしている事から始まり、SDGsという物差しで測ってみる。SDGsを意識することから始まります。

参考文献

協同組合とSDGs（家の光社）

専務理事 新井厚美

東信



コロナに負けない取り組み

今思うと、4月時点では漠然と「怖い。どうしよう」と思い、もし事業所で感染者が出たときはどうしようと考えていました。実際にコロナ感染症の方が出たときの指針は市や保健所からはなく、ただただ感染予防と自粛のみが指導されていました。

このときに一番知りたかったことは、感染者が出たときにどういう対応をしたらよいのかということでした。結局、自分たちで考えていくしかなく、利用者さん一人ひとりでどうしたら良いかを検討し、一覧としました。

四季のベンチは、はっきりいって密です。介護という仕事も密です。通いの人数は、1日平均15名、感染するリスクも格段に上がります。特養や有料老人ホームは完全に面会を禁止し、感染リスクを減らしていましたが、通所となるとそうはいきません。家族の元に帰り、普通に生活するわけですから感染リスクは高くなり、感染ル―

トも簡単には追えません。

職員についても感染リスクは同じだと考えています。また、利用者さんはほとんどマスクが出来ません。マスクをすすめる意味を教えても忘れてしまった、理解できなかつたりというわけです。

このようなときでも、利用を制限することはほとんどしませんでした。家族や利用者さんが必要としてくれている以上、こちらは感染予防をし、ふだん通りに受け入れることにしようとして事業所で話し合いました。

実際にコロナが発生した場合は、職員は自宅には帰らず、一定期間泊り、利用者さんに対しては、少人数の職員で訪問対応をさせていただく予定です。お風呂は、一人お連れしてお風呂に入っていたら、その方を帰したら次の方をお連れするという対応を想定しています。介護は、密着しないと務まらない仕事です。危険ではありませんが、心構えは職員がずでにしています。



四季のベンチ 松崎裕子

北信



コロナ禍「元気の出る」活動

地域の人や組合員さんの寄り場として、歌ったり雑談をしたりと盛り上がりつつある桜枝町の「カフェ」は新型コロナウイルスで2月末から休館しています。新型コロナウイルスはまだ猛威を振るっていますので集うことは出来ませんが、組合員さん提供の野菜販売は6月から再開しています。

野菜は松代産で、利用者の方からは「ここの野菜は安心して食べられるし、安くておいしいのよね」と好評をいただいています。店頭に来る利用者さんは少しの間を喜び、再開を心待ちにしている様子が見えます。ボランティアさんも暖簾や名札を作ってきてくれて、以前の楽しいカフェの運



間を喜び、再開を心待ちにしている様子が見えます。ボランティアさんも暖簾や名札を作ってきてくれて、以前の楽しいカフェの運

営ができる準備をしています。カフェは信州大学や県立大学から近いということもあり、「信州学生まんぷくプロジェクト実行委員会」にカフェの場所を提供し、7月24、25日に大学生への食料支援が行なわれました。

コロナ禍でバイトが少なくなったりできなくなったりした学生や、「野草を料理してお腹を壊した」「一日一食で過ごしている」などの声から学生を支援することを目的として開催されました。

2日間で計72名と想像を超える学生が物資を取りに集まりました。初日は雨にもかかわらず準備したものが無くなるほど大盛況で、多くの学生が列をつくって物資を受け取っている姿がありました。参加した学生からは、「また行なってほしい」「コロナがなくても苦しいので、本当にありがたい」などの声が寄せられました。定期的に支援活動は行なっていくようです。

先の見えないコロナ禍でカフェ本来の活動はまだまだできませんが、今できる事を精一杯楽しみ、カフェの再開に向けてこの形でカフェをしばらく続けていきます。

事務局 北村淳史

中信



手分けして電話で声掛け

新型コロナウイルスの影響で半年近く組合員活動は見合わせ状況となっていました。「自粛や3密回避等での運動不足や生活リズムの崩れ、生活の変化に伴うストレスによる健康への影響懸念」との報道もあり、生協の組合員さんは今どう過ごされているのか大変気懸りになっていました。中信地区約750人の組合員対象に調査確認もさすが少人数では出来ません。

7月のセンター理事会議の論議で何らかの取り組みが出来ないかとのことで、今年2月開催以後コ



笑いが絶えない茶話会

センターだより

ロナ影響で休止中の『ふれあい茶話会』の参加者約20名に、「自宅にこもりがちで困っているかも」「思い切って声掛けをしてみよう」「感染拡大がある程度おさまれば10月再開も」と思い、早速声掛けの具体化を決めました。

会話の中で暮らしの状況や困り事などがあればお話を聞き、心の相談にも向き合い、元気づけられればと、茶話会運営母体のきずなの会に属する理事が名簿で手分けし、8月初旬に電話掛けをしました。

電話での反応は…、「消毒、買物、消毒の繰り返し。知り合いと施設へボランティアに行っていたがコロナの関係でやれず。また茶話会に参加したい。わざわざ電話ありがとう」「2月から外出は減っている。近所の店で用足し。知人との電話での会話で過ごしている。茶話会に参加したい」「朝の早いうちに散歩、軽い運動に努めて元気にしている。わざわざ連絡、ありがとう」などでした。外出時間は確実に減っているようで、電話連絡の反応はよく、元気に過ごされている様子に安堵しました。

風間隆治

南信



「わいわいカフェの指とまれ」活動を再開して

昨年12月から月1回のペースで開催してきましたが、感染症予防のため春先より休止してしまいました。しかし利用されていた方からは「楽しみが無くなり残念」「再開はまだか？」などの声をいただいていた。メンバーからも「仲間間に会えないので寂しい」「誰かのお役に立てる大切な機会だったのにな」との声もありました。

せっかくながった縁を途切れさせないために、お便りの配布を行ないました。たった一通のお便りに感激して下さり、わざわざ電話を下された方もありました。



感染者数の減少が落ち着いてきた6月初旬にやっと再開が可能となりました。再開にあたっては感染予防策の徹底を図りました。当日は予約によるお

弁当の配布のみで、受け渡しは屋外のテントで実施。毎行なっていた室内での交流会はしない。そして、来訪者には手指消毒やマスク着用の徹底を呼びかけました。また、食中毒が心配される季節になるため、来訪者には保冷バッグの持参をお願いしました。

当日は雨模様でしたが、事前に40食もの予約をいただき、久々の再会を喜ぶ皆さんの笑顔をたくさん見ることが出来ました。地方新聞の取材やケーブルテレビの問い合わせもあり、活動再開への関心の高さも伺えました。

「ウィズコロナ」「アフターコロナ」「ポストコロナ」など色々表現がされ、私たちの基本的な価値観や社会のあり様について見直すべきかけにすべきとの提言をよく耳にします。そのことは私たちに突き付けられた大切な課題でしょう。一方、私たちはこの活動を通じて、逆に変えてはいけない大切なことに改めて気づかされました。それは「人と人の結びつき」や「お互いの存在を認め合える関係性」などでした。私たちはこれからも、このことを大切にして取り組みを進めていきたいと考えています。

前島修史

平和のための「信州戦争展」

コロナから見てきた平和の危うさ



介護現場の報告をする
松崎裕子さん

「デイに通う利用者さんは普段どおりに過ごしてもらっています」と松崎さんは語り始めました。感染リスクの高い高齢者を預かっている職

日々を報告しました。意見交流会です。教育、平和運動、高齢者、医療に携わる4人がそれぞれの立場で発言。高齢者分野からは「四季のベンチ」管理者の松崎裕子さんが、コロナに向き合う現場での

毎年8月、東信地域センターと地元の平和運動の仲間が共催している「平和のための信州戦争展」を9日、10日に開催しました。今回はコロナウイルスの影響で、一時は中止も考えましたが、「みんなが平和を願い創り出そう」と訴える活動を、コロナ如きにじやまされては悔しいと、インターネットを利用してオンライン中継で発信することにしました。例年なら数百人の参加者を集める戦争展ですが、今回は参加者を数十人程度に想定、会場は佐久市岩村田にある佐久教育会館です。

戦争展目玉イベントの一つは「トーク2020」コロナ時代に考える平和・いのち・暮らし」をテーマにしたコメントーターと会場参加者(約70人)の意見交流会です。教育、平和運動、高齢者、医療に携わる4人がそれぞれの立場で発言。高齢者分野からは「四季のベンチ」管理者の松崎裕子さんが、コロナに向き合う現場での日々を報告しました。

一方、利用者側にはホテル勤務やマツサージ師など「密」を避けられない家族もいます。また、定期的に帰宅していた東京の家族が来られなく



会場ロビーには「あの夏を語る」の戦争遺品を展示

なったため、「四季のベンチ」に半年間宿泊を続ける利用者もいます。この家族は緊急事態宣言解除でようやく帰って来たものの面会できずに自宅待機、利用者が家族と再会できたのは10日後のことでした。

「ことしになり、小さな介護事業所の倒産が相次いでいます。感染予防の用品が入手困難で経費がかさでいることも一因です。地域に根ざす事業所が消されていくのは本当におしい」という松崎さんに参加者は大きくうなずいていました。

会場からもコロナに向き合うさまざまな意見が出ました。なかでも多かったのは「コロナ罹患は自分のせい」という自己責任論がはびこっている風潮を危惧する声でした。

コロナは現代社会を映し出す鏡？ ヨーロッパではコロナ罹患患者にはいたわりの手紙がドアから差し入れられたり花束が贈られたりしているようですが、日本では逆に差別が生まれ、ゴミを庭先に投げ込まれたりガラスが割られたり……。

自粛警察なんて奇妙な現象と同調意識、これが肥大化すれば、大きな声に従わない者は非国民といわれた戦前、戦中の風潮に逆戻りする危険もはらんでいます。まさに「コロナ」が命と暮らしを守る「平和」の危うさを私たちに警告しているようにも思えた意見交流会でした。

戦争展のもようはホームページ
「平和のための信州戦争展」
(<https://w.atwiki.jp/pactsaku/>)
で見ることができます。

被災回避のための準備を普段から

現代人は地球規模の変化に対し

て、今までの勘や経験則が役に立たなくなっていたり、とても鈍感になっていたりしています。人間はいつも後手に回り、未曾有、予期しなかった、まさかここでこんなことが、などと絶句の言葉を数多く聞いてきたのではないでしょう。加速の度が過ぎてしまったのか。世の中にはさらにAI（人工知能）をはじめ、コンピューターやロボットなど機械に頼り、本来の人間性がより失われていく生活が一層見え始めました。

テントウムシの避難

テントウムシは危険を察知すると、危険から逃げるためにポロッと自分から落ちるようプログラムされています。究極の避難形態です。昆虫はこの手口でどれだけの命が助かっているのか計り知れません。決して他人任せで意思決定していません。今、まさに

必要ないか。

普段からの準備と行動を

今、大急ぎで準備し整えておかなくはならないことは、生き残るための心の準備と行動です。逃げ遅れない、けがをしない、明るいうちに行動する。まず自分が生き残れなければ、他の人を助けることもできないのです。だからそのためには実践的な練習が必要なのです。普段から自分で歩いて目視しておくなど、避難行動へのハードルを下げておくことが必要です。

アラート放送も練習に

大地震を予告する緊急災害アラート放送は、いつ何時流れるかわかりません。間もなく瞬時に災害が起こるということを前提に対処するしかありません。空振り情報だったとしても胸をなでおろすのではなく、それに対してすぐに回避する方法を思い描くことの「練習をさせてもらった」という気持ちが大切なのです。

自分なりの避難用具準備を
あらゆる災害に対応できる必要避難用具は各人それぞれに違う

必要な気持ちは、こんな基本的な心構えができていくかどうかではないでしょうか。

ものです。市販の避難セットのみに頼らず、自分で考えて詰めて用意したものが確実です。

身近な人との話し合い
迫りくる災害に待ったはありま

せん。「それは必ず起こること」を前提として、自分の身近で大切な人とよく話し合うべきです。

組合員 齊藤 和雄

マイ・タイムラインの作成方法

① 自宅や周辺を確認する

洪水ハザードマップで確認しましょう。



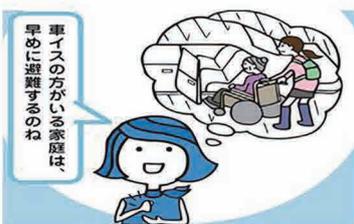
② 避難先を具体的に考える

水害時に利用可能な避難所を確認しましょう。



③ 避難のタイミングを考える

家族構成を踏まえて考えましょう。



④ 家族と話し合う

マイ・タイムラインをもとに家族と話し合い、実際に歩いてみましょう。



出典：国土交通省関東地方整備局下館河川事務所

マイ・タイムラインは、災害時の防災行動をスムーズに行なうためのものです。我が家の危険を知り、避難先と経路を決め、警報等の情報集めて危険と判断したときは速やかに避難の行動を起こして「逃げ遅れゼロ」にしましょう。

私からの伝言

戦中・戦後の食料難は並大抵

じゃあなかった(3/3)

酒井よしみさん

1917年(大正6年)

上水内郡中条村生まれ。90歳

最高の喜びだった子どもの誕生、そして、その子を失った悲しみ

長男の出産は、丁度お蚕さんの真つ盛りの時でね。蚕棚に手を延ばして桑をくれていたら、サーと羊水が下がって下半身がぐっしり濡れてしまつてね。何しろ初めての事でどうすればいいか、とにかく、お産婆さん呼びに走ってもらつたの。下着替えて、お産婆さん待っていてもお腹は全然痛くない。お産婆さん、駆けつけてくれたけど陣痛も始まらないし、これじゃまだまだと一旦は帰られてしまつてね。しかたないから、お湯を沸かしてうどんでも食べて力付けたほうがいって湯を沸かし始めたら、痛みが始まつて来た。等間隔に痛むので又お産婆さん呼んで来た。すると、「おい、そのうどんのお湯すぐ使うからうどんは待ってくれ」っていつてると「オギャー！」って大きな泣き声で産まれたんだよ。

「おお金太郎さんだか桃太郎さんだか元氣だよ」って言われてね。見たら目もぼつちり開けて丸々と太つた大き

な赤ん坊なの。羊水が先に下つてしまふと危険だ、といわれて心配したけど「よかつたな」と幸せ感で一杯だったね。お産は苦しいと聞いていたが、普段の苦勞の方が勝つてたのか、それほど苦勞とも思わなかつたね。

可愛くてね、子を持つつてこんなに嬉しく今までの人生で最高の幸せだったね。お蚕さんの忙しい最中だったんで、産後一週間で働き出してたら、「お前さん金太郎さんだか桃太郎さんだか産んで大仕事したんだから、大きな顔してゆつくり休めよ」って近所の人がいつてくれてね、お乳も溢れるほど出るし、いい子に育ってくれたんだが、その息子は四十九歳で交通事故に遭つてね。孫息子一人残して逝つてしまつたんだよ。目の前が真つ暗になつて、働く気も何もする気もなくなつて夜も眠れずポカーンとして八キロも痩せてしまつたよ。人生の中で一番辛いことだつたね。

優しくかつた姑と夫を看取り、いまは自給自足の健康生活

私はいとこ同士の結婚で叔母の所に嫁いだんですよ。血族の関係も少々気にはなつたんだけど、難なく長男長女に恵まれてね。長男は帰らぬ人となつてしまつたけど、孫息子を残してくれたい事はあるけど、孫息子を残してくれたい事はないことなんです。長女は遠くにいるけど気にかけてくれて、毎日夜8時になると必ず電話をかけてくるんですよ。

昔は叔母を姑に持つことは、「親姑(おやしゅうと=叔母)をもつか裸で

バラ背負うか」と言われたほど、気苦勞する覚悟がないと勤まらない、といつたようだけど叔母は私をいつも大事にしてくれてね。嫁いだ娘が来て世話をやくと私に味方して「何しきたんだ、もう帰れ」って追い返してしまふんだよ。

一番嬉しかったのは夫は戦争で死ぬような苦勞をしてるし、私は一年中働きづめだから、子供がおむつ取れたら温泉でゆつくり骨休みしておいでと、年に一回、上山田の温泉に一週間泊まりで行かしてくれてね。年中休みなく働く私に感謝の気持ちだったのかと思つてね。姑は夫と共に三年間看て逝つたの。その後夫は寝たきりの生活が二年続いたけど、私が一人働いてるもんだから申し訳ないと思つたのか、「見るの大変だから、俺、病院入るか?」と聞くから「戦争でさんさん苦勞して帰つて来てくれたのに……私が見てやるよ」って言つたら「そうか、看てくれるか」ってほろりと涙流したんだよ。

今は一人生活になつたけど、こんなに元氣な身体もらつて来た事は本当に感謝だね。美味しい物も食はずに厳しい生活に耐えて来てるから、どんな事も苦勞と思わないし、どんな物でもまがいと思わないね。こんなに元氣な身体もらつてきた事は本当に幸せだね。まだ自分で食べるものは自分で作つているよ。自給自足の長寿食をね。

理事会報告

(7月・8月)

- 新型コロナウイルス感染症予防対策を引き続き緊張感を持って実施します。
- 6月27日に実施した第22回通常総代会について確認し、総代さんからの意見・質問への回答を確認しました。
- 第1四半期の到達を確認しました
事業高1億7141万2千円(予算比97.7%・昨年比95.6%)、事業剰余1230万8千円と新型コロナウイルスの影響もあり、事業高は厳しい状況にあります。事業剰余は予算以上に確保しています。
- 2020年度下期に重点的に取り組む課題を決定しました。
- 理事・総代組合員・就労組合員が共通認識に立てるよう学習活動を推進します。
- 一人ひとりの願いを形にした第6次中期計画を作り上げます
- 職場から代表を出し合い、協同労働検討委員会(仮称)を設置し、働き方や事業所経営の在り方等、労働環境も含めて検討します。
- 経理に関する諸規定の見直しを行ないました。
- 懲戒手続き規程を決定しました。
- 長野医療生活協同組合への緊急支援募金10口10万円を拠出します。
- 令和2年7月豪雨災害支援募金活動に9月30日まで取り組みます。
- 平和の学習パンフを基に、各センターで学習会を実施します。
- 県生協連主催の「健康チャレンジ」に今年も取り組むこととし、全組合員に配布します。

第31話 「白癬菌の感染に要注意」(南信 今村洋子)

はくせんきん

「所長さん。いちどWさん(90歳 女性)の背中
の湿疹見て下さい。なんだか段々ひどくな
って、膿を持つようになってしまっ
て。主治医が抗生剤の軟膏出してくださ
っても全然良くなりません。」

「えっ。もしかして?」とある不安をもち
ました。

すぐ訪問してWさんの背中
の湿疹を見せてもらいました。

夏の暑い日が続いていました。よく冷房が
聞いた部屋ですが、大柄で肥ったWさんは汗
びっしょりです。

介護されているお嫁さんが困った顔で「お
義母さんが背中を切り取ってくれていいの
です。とても痒いようです。」と報告して
くれました。

Wさんは1年前に両膝関節炎の痛みのため
に身動きができなくなり、寝たきりになりま
した。はじめは微熱も出ていました。
ちよつと足を動かすだけでも痛みがまし
た。



週3回の訪問看護で便を出して、全身清拭
や着替えをしてきました。身体を
動かす度に大声で「痛いー。痛いー。」
と叫ばれ、まるで虐待を受けている
かのようでした。一緒に手伝ってくだ
さるお嫁さんと「我慢してね。ごめ

んね」と励ましながら介護をしてきました。
そんな状態だったので、とても訪問入浴を
受けるのは無理だと判断して、洗髪や手足浴
などもベッド上で行なってきました。

1年がたつてようやく痛みが取れ、主治医
の許可をいただいて訪問入浴を受けるよう
になったのです。

はじめ背中の湿疹は汗による皮膚炎かと思
われました。

主治医の処方による軟膏の処置をしていた
のですが、どんどん悪化して広がり、背中心
体が真っ赤に腫れあがり、ところどころ膿を
持つようになりまし

た。湿疹をよく観察するところどころに円形
になり縁がぶつぶつになっているところがあ
ります。これはただの汗による皮膚炎ではな
いようです。専門科の医師の診察を勧めまし
た。

すぐに主治医の紹介で皮膚科の医師の往診
を受けてもらいました。

Wさんの背中はカビの一種である白癬菌の
感染であると診断されました。

白癬菌は足の指に感染すると「水虫」で皮
膚に感染すると「たむし」と呼ばれています。
皮膚科医から処方された軟膏でWさんの背
中の湿疹はまもなくきれいに治癒しました。

皮膚科医はWさん自身からの感染は考えら
れず、最近始まった訪問入浴槽からの感染が
疑われると言われました。

訪問入浴業者に報告して、浴槽の消毒の徹
底をお願いしました。

ケースから学ぶ

多くの寝たきりの高齢者が
足水虫や爪水虫を持っていま
す。

その治療が訪問看護の仕事
の一部になることもありま
す。放置していると介護され
ている方に感染する場合があ
ります。

訪問入浴は同じ浴槽で一日
何人も入浴させるので、業者
は一回一回の浴槽の消毒を徹
底して行っているようです。
また感染症をもっている初
めからわかっている人の場合
は一日の最後に入っていた
ているとのこと

訪問入浴は持参した浴槽の
中のハンモックの網に利用者
を寝かせて入浴させます。W
さんはそのハンモックからの
感染が疑われました。

私たちも利用者さんのお宅
からお宅へ移動する時は手洗
いなど感染予防にとても気を
使っています。

簡単料理で元気アップ さつまい芋きんつば

「材料」 4人前
さつまいも 300g

A
砂糖 40g

塩 ひとつまみ
シナモン 適量

B
牛乳 大さじ 1

白玉粉 大さじ 1
小麦粉 50g

砂糖 20g
水 80ml

「作り方」

①さつまいもを柔らかく
なるまで茹でて、よくつぶし、Aを
入れて混ぜる。

②固さを確認しながら牛乳を加える。

③②を型などに入れ冷蔵庫で冷やす。

④③を8等分に切り分けたあと四角に形
を整える。

⑤Bを混ぜ合わせる。

⑥油を薄く引いたフライパンに、⑤で
作ったものを1面ずつ付けて6面を繰り
返し焼く

秋の味覚の代表格であるさつまいも
を使ったおやつです。さつまいもはビタミン
Cがりんごの7倍含まれていてシミ・ソ
バカスを防ぎます。またβカロテンは強
い抗酸化作用で老化予防になります。食
物繊維も豊富。美味しく食べて、健康で
きれいな身体になりましょう。

伊那谷のムーミン



クロスワードパズル

家族で力を合わせチャレンジしよう

今号の締め切り 10月9日(金) 必着

1	2		3		4	D
			5			
6		7			8	9
				10	C	
11			12			
			B			
E		13			14	
15			16		A	

前々号の正解 (142号) たんごのせっく

1	こ	い	2	ご	3	こ	4	ろ		5	た
				C						A	
	い		6	に	ち	じ	7	よ	う		
8	の	9	れ	ん			10	う	こ	ん	
11	ぼ	ん			12	み	ら	い			
				B							
13	り	ち	14	う	む			15	ど	16	じ
		17	や	す	く	18	に			せ	E
19	つ	く	だ			20	く	か	い		
							G				

正解者 3名 当選者(3名)は新井節子さん、河瀬幸三郎さん、関侑子さんでした。おめでとうございます。クオカード500円をお送りします。

〈タテのカギ〉

- ②ある事についてもっている考え。
- ③市が経営すること。
- ④足りなくなった分を補うこと。「水分〇〇〇〇」
- ⑥もろくて弱いこと。
- ⑦家族・夫婦などが別々に住むこと。
- ⑨書類などに必要な事柄を書き記すこと。
- ⑩学校の門。
- ⑫物事を恐れない強い心。いさましい意気。
- ⑭家々の系統を表す名称。名字。

〈ヨコのカギ〉

- ①保育所・養護施設などの児童福祉施設で、児童の保育に当たる職員。

- ④危険・破壊・困難などが及ばないように、かばい守ること。
- ⑤期日や期限を延ばすこと。
- ⑥アメリカ合衆国全体。
- ⑧水蒸気が上空で凍って、降ってくるもの。
- ⑩二つ以上の線状のものが一点で交わること。「〇〇〇点」
- ⑪配給や支給を受けること。
- ⑬ヒツジ・ヤギから刈り取った毛。毛糸・毛織物の原料となる。
- ⑮体の一部。〇〇を長くして待つ。
- ⑯自分の家の近く。近いところ。

〈応募方法〉

☆タテ、ヨコのカギを解きながら□に文字を埋めていき、A～Eを順番に並べて言葉を完成させてください。それが答です。応募いただいた正解者の中から抽選で3名様にクオカード500円をプレゼントします。
 ☆答、氏名、住所とともに日常の出来事や「かがやきのニュース」へのご意見・ご感想などを書き添えて、郵便、ファックス、Eメールでご応募ください。
 宛先 〒381-0024 長野市南長池 761-3 長野県高齢者生活協同組合「クロスワード」係
 fax 026-263-2385 Eメール kagayakinews@nagano-koureikyo.jp

作品募集中!!

あなたの作品をお寄せください。紙面に随時掲載します。

- 写真・絵画・絵手紙・手作り品にはタイトル、説明文を添付してください。
- 作者の氏名、年齢、住所(郵便番号)、連絡先電話番号を明記してください。発表に際しては本名を原則としますが、匿名を希望の方はペンネーム等をお書き添えください。

○応募締め切り 随時受け付けます。

○応募・問い合わせ先 ☎ 026-263-2386

☎ 381-0024 長野市南長池 761-3 長野県高齢協「作品募集」担当
 Eメール kagayakinews@nagano-koureikyo.jp

○短歌・俳句・川柳 各3点以内

○絵画・手作り品 各2点以内

写真に撮り、2L判にプリントまたはJPEGデータで。

○写真 3点以内

2L判にプリントまたはJPEGデータで。

○絵手紙 3点以内 はがき大の現物または写真に撮り、JPEGデータで。

読者投稿



マレットゴルフは入場禁止

久しぶりにマレットゴルフをするため、犀川第二グラウンドに行きました。以前より大会等の多人数で行なうプレーは禁じられていましたが、今日は「入場禁止」で入口はロープが張られていました。コロナウイルス騒動で気分が滅入っているので気分転換にと思っていたのですが、残念。

(河瀬幸三郎さん)

もっぱらクイズと短歌

ステイホームの毎日で、今はもっぱらクイズと短歌を楽しんでいます。

(新井節子さん)

楽しめる過ごし方に努める

「コロナよ、コロッと消えてくれ」です。リスクある年齢になり、予防も「楽しめる過ごし方」に努めつつも「つぶやき」心に残りました。夫に先立たれ三十余年リンゴの花に歳月を重ね思い出しております。パズルは、認知症予防になりますかしらと、楽しんでます。

(高橋けさよさん)

介護者の苦勞がわかる

各センターそれぞれ活発な活動をされている様子、素晴らしく頭が下がる思いです。「ゆうゆう介護軸」では具体的なケースのお話が載っており、介護に従事する方のご苦勞がわかりました。お世話になる家族も理解を深められると思いました。

(忘れな草さん)

家にこもる寂しい春

写真を撮る趣味にしていますが、今年には本当に辛い、寂しい春になってしまいました。写真を撮り始めて十数年になりますが、こんなことは初めてです。毎年、この時期は、水芭蕉、ザゼンソウ、春山の雪模様など、連日のようにカメラを持って飛び歩いていたのですが、ただただ静かに家にこもっています。一日も早く収まってほしいものです。そのためにもPCR検査対応の抜本的な改革や休業補償強化などを強く求めたいと思います。

(松本隆雄さん)

努力の毎日

二人共高齢者、二人合わせて半人前。皆さんに迷惑を掛けぬよう、努力の毎日。(武井房子さん)

オープンおめでとう

141号の表紙に見入ってしまいました。おいしそう！ 楽しそう！ 老いも若きも集えるって素敵ですね。「わいのわいカフェこの指とまれin東春近」オープンおめでとうございます。(熊澤宏さん)

人間への自然からの復習

コロナウイルスがなかなか終息せず、毎日不安な日々を送っていますが、私にはコロナは私たち人間への自然からの復讐に思えてなりません。人間は未曾有の身体的、経済的、その他あらゆる面での危機に見舞われ、世界が変わってしまいそうです。また、実際の乗り物が動かなくなったので石油の消費量も減り、結果として環境汚染が少し緩和されていると聞きます。許してくれるまで耐えるしかないと思います。そして、その先を良い方向に変えていかねば。

(古岩井かおるさん)

子どもたちの精神状態が心配

娘たちの学校が分散登校という形で少しずつ登校が始まりました。まだまだ心配な状況での学校再開に不安もありますが、3月からずっと家にいる子供たちの精神

状態や勉強の遅れも心配です。早くコロナが終息し、みんなが日常生活を送れることを願うばかりです。

(宮澤絵美さん)

★仮名をご希望の方は、ペンネームを添えてください。

つぶやき

近くに住む娘家族と爺ヶ岳へ日帰り登山をした。屈指の展望コースだが、生憎のガスガス天だった。そこへ下山途中での転倒でケガ、何とか下山し医療処置を受け帰宅。登山歴50年余、初めての事にどうしたのか振り返っても良くわからぬ。「要するに注意力低下と年のせい？」耳慣れた言葉で落着。

今年の山は激変している。営業している山小屋でも感染予防が徹底されていた。

水が不自由なため消毒剤や使い捨て器。宿泊は2/3割へ押さられ、経営で見れば全くのマイナスだ。山の日制定の趣旨にある自然の恵みの恩恵を享受。感謝：楽しみ、文化を育むにも、泊めることに留まらず山小屋が担っている登山道整備や環境保全、遭難対応等、安全安心の登山が出来るように国・県の政策と支援を望む。

(島崎歌子)

「特養あずみの里刑事裁判～無罪判決の意義と広範な支援」について

特養あずみの里の業務上過失致死事件裁判で
無罪を勝ち取る会

事務局 塩原 秀治

2014年12月26日に在宅起訴されて5年半。事案が起こったのは13年12月13日でしたから、それから6年半。長い闘いでした。

8月11日、東京高検が上告断念した時点で山口さんの無罪が確定しました。高齢協のみなさんには、裁判闘争開始直後から心こもった支援を頂き、感謝申し上げます。最終盤での東京高検に対する上



告断念を
求める要
請書を、
各事業所
から速や
かに寄せ
ていただ
きまし
た。あり
がとうご
ざいまし
た。
20年7
月28日、
控訴審が
東京高等
裁判所第
6刑事部

で開かれ、大熊一之裁判長は、山口さんが嚥下障害のない女性がドーナツによって窒息することを予見することはできず、おやつ
の形態を確認すべき義務はないとして、山口さんの過失を否定し、長野地裁の第1審判決（罰金20万円の有罪判決）を破棄し、無罪判決を言い渡しました。

この「事件」は13年12月、特養あずみの里で入所者Kさん（85歳）がおやつ
のドーナツを食べた直後に意識を失い、搬送先の病院で1ヶ月後に亡くなった件
で、配膳・食事介助にあたった山口さん
が「業務上過失致死」に問われた刑事裁
判です。長野地方裁判所松本支部は、19
年3月25日、検察の求刑通り罰金20万円
の有罪判決を言い渡し、山口さんと弁護
団が即日控訴し、東京高裁で控訴審が行
われていました。

第1審の有罪判決は、全国の介護関係
者や高齢者らにとつて少なからず衝撃を
与えました。わが国における介護内容の
後退・萎縮への懸念を介護関係者のみならず、多くの人々が共有しました。1審、
控訴審での無罪を求める署名は73万筆を
超えました。

東京高裁における判決は、介護の現場
でリスクや状況をきちんと判断して仕事
をしていけば、刑事責任に問われること
はないことを示しただけでなく、介護職

らの今後の有用な指針となつて、ケアに
活かされる画期的な判決でした。

これにより、今後の介護の質を担保
し、高齢者、障害者らのQOLの向上に
資することになります。まさに「介護の
未来」がかかった裁判でしたが、介護の
未来に光を灯しました。

とりわけ、本判決で示された食品の提
供に関する事項で、おやつを含めて食事
は、医薬品の投与などとは明らかに異な
り、精神的な満足感や安らぎを得るため
に重要な営みであるとして、リスクを考
慮しつつ多様な食物を提供することの必
要性と食の楽しみの大切さを認めた見解
は、高齢者、障害者らが人間らしく日々
の暮らしを保って生きていくことを願う
介護者、支援する介護職の意欲を高める
ものです。

この間、介護現場は介護職の確保がで
きずに大変な状況が続いています。この
裁判勝利を受けて、ますます、介護現場
から声を上げてよりよい介護の実現を多
くの方々と手を取り合つてめざしてい
きたいと思えます。誰もが安心して生活
ができる当たり前の社会の実現をめざし
ていきたいと思えます。

介護サービス事業を実施している高齢協として
も重要な裁判でした。無罪を勝ち取ることができ
て、ほんとうによかったです。ご支援くださった組
合員のみなさん、ありがとうございます。

理事長 田中夏子